【 認定山岳医・看護師講習会における登攀系実習について 】

　実行委員会は実習中の安全確認に留意し実習を進めて参りますが、登攀活動では予期せぬ事故が起こりえることをご了承ください。ハーネスや器具などの取扱いは最終的には自己責任です。上からの落下物にもご注意ください。

　また、極めて限られた時間内で実習を円滑に行うため、ご参加の皆さまの登攀能力を確認させていただきたく、以下をお読みいただいたうえでアンケート調査を行います。このアンケート結果により、実習の班分けを行います。

　今回の実習の目標は「山岳関係者と登攀系技術や器具について自在に会話できる知識」です。そのため以下について体験し、理解していただきます。

①危険な場所での安全確保、バランス能力

　ヘルメット、ハーネス、ロープ、ビレー器、カラビナなどの器具類の名称、使用法。

　クライミングで養われた安全確保の知識やバランス感覚が、一般登山においても有益であること。特にフットワーク。

②山岳スポーツとしてのクライミングやその登攀システムの理解

　スポーツクライミングの楽しみ（課題、グレード）。

　リードとトップロープ、シングルピッチとマルチピッチ、ボルダリング。

　シングルロープ（宇都宮クラスタ）、ダブルロープ（立山クラスタ）。

　基本的なロープワーク（エイトノット、ロープのたたみ方など）。

　以上の①、②は、山岳スポーツとしてのクライミングを体験するのみならず、レスキュー現場でのロープワークを理解する際の基礎知識となります。

　本邦においてのみならず国際的にも我々の認定山岳医・看護師制度が認知されるためには、医学的知識のみでなく山岳技術への理解も十分であると山岳界に認識していただけるようにすべきでしょう。

　今回は体験し理解することが目的ですので実際に上手に登れたりロープを操作できる必要はありませんが、これを機に山岳技術の習熟に努めていただければ幸いです。

2015宇都宮クラスタ実行委員　稲田真/浦川陽子

【 アンケート 】

受講番号　 　　 氏名

（１）上記の実習目標①〜②について、

a. 上記の実習目標の用語が理解不能、あるいは登攀系登山の経験が乏しい。

b. 上記の実習目標の意味は理解できるが、自ら実践することはできず、登攀系山行（岩や沢、アイス、雪壁、フリーなど）のリーダーを行ったことが無い。

c. 上記の実習目標を理解でき、自ら実践することもでき、登攀系山行のリーダーを行ったことがある。

（２）設問（１）で「a.登攀系登山の経験が乏しい。」と「b.登攀系山行のリーダーを行えない。」とお答えいただいた方へお尋ねします。

　トップロープやセカンド（フォロー）で岩場を登った経験はございますか？

 a. この設問の用語の意味がわからない。

 b. この設問の用語の意味はわかるが、登った経験が無い。

 c. 登った経験がある。

（３）設問（１）で「c.登攀系山行時のリーダーを行える。」とお答えいただいた方へお尋ねします。

　登攀グレードをお教えください（ＯＳグレードでなくＲＰグレードで可）。

 これまでの最高グレード　（インドア　　　　　　）

 これまでの最高グレード　（アウトドア　　　　　）

 現在リードできるグレード（インドア　　　　　　）

 現在リードできるグレード（アウトドア　　　　　）

（４）身体の具合はいかがですか？肩や腕、腰、膝などの傷障害、呼吸器循環器疾患などはありませんか？

 a. 問題なく、実際に登攀体験できる。

 b. 不安があり、見学のみにする。（＊講師との質疑応答は免除されません。）

（５）何かご質問はございますか？